

## 令和3年度第1回秋田県立博物館協議会（要旨）

1 開催日時 令和3年8月4日（水）  
午前10時から午前12時まで

2 開催の場所 秋田県立博物館 大会議室

3 出席者 19名

(1) 委員	阿部 聡	委員（協議会副会長）
	荒川 康一	委員
	梅津 一史	委員
	加藤 薫	委員
	後藤 節子	委員
	佐藤 好久	委員
	菅原 香寿美	委員
	田口 義則	委員
	西村 美智恵	委員
	早川 敦	委員（協議会会長）
	松橋 睦子	委員
(2) 生涯学習課	三春 智弘	生涯学習・学芸振興班学芸主事
(3) 事務局(博物館)	今川 拓	館長
	小野 博美	副館長
	山本 丈志	展示・資料班長
	藤原 尚彦	普及・広報班長
	池端 広樹	学習振興班長
	児玉 弥生子	総務班長
	佐藤 麗美奈	総務班主事

4 議事概要

(1) 開会

(2) 館長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 案件

ア 報告「令和3年度博物館事業計画について」

① 調査研究、資料収集管理、展示活動について、展示・資料班から説明

② 教育普及、広報・出版活動について、普及・広報班から説明

③ 学習振興活動、セカンドスクールの利用について、学習振興班から説明

イ 協議「コロナ禍における博物館運営のあり方について」

- ① 博物館におけるコロナ感染症対策と現在の運営状況について事務局より説明し、委員からそれに対する意見を伺い、質問に対し回答した。

(委員) 学校のセカンドスクールの利用(以下、「SS利用」という。)の説明の中に、修学旅行の受入れについても話があったが、最大でどのくらいの規模の受入れが可能か。

(事務局) 100名位までであれば受入れ可能である。ただし、SS利用における各展示室の入場人数を40名までに限定しているため、グループ分けをして密にならない対応をしている。

(委員) これまで200名を超えるSS利用の申込みはあったか。

(事務局) 小学校から160名程の利用申込みがあり、その時は、160名を2グループに分けてもらい、他施設(その時はポートタワーセリオン)と交互に利用してもらうことがあった。

(委員) 私どもが指定管理をしている児童会館でも換気が問題となっており、二酸化炭素濃度計を購入し、その測定結果により、施設内の適正な人数や換気の目安としている。博物館ではそういったことは実施しているか。

(事務局) 二酸化炭素濃度計測器の用意はない。各展示室の床面積に対し、人との間隔2mとして計算をし、密を避ける目安の人数を出している。なお、体験型学習のできる「わくわくたんけん室」などは窓が無いため、外気を直接取り入れる換気ができないことから、大型の空気清浄機とサーキュレーター各2台の稼働と定員を4分の1に抑えることにより、感染リスクの低減を図っている。

(事務局) 博物館教室などのイベントについても、例年の募集人数よりもだいぶ定員を減らして実施している。

- ② 委員の所属する職場や団体等におけるコロナ感染症対策やコロナ禍における今後の博物館のあり方について意見を伺った。

(委員) 高校では今年度から生徒一人1台のタブレット端末が配布され、また、普通教室には電子黒板と実物投影機が各1台ずつ設置された。各教科での調べ学習や自分の意見をまとめ発表するという場面でタブレットを使用し、それぞれの意見を共有する場で電子黒板に投影するということが行われている。コロナ対策としては、全校集会や壮行会、学校祭等をすべてオンラインで行っていて、体育館に生徒が一堂に会することなく、教室の電子黒板で見る形をとっている。特に今年の全県総体で男子バスケットボール部が決勝戦に進んだ際には、

YouTube でオンライン配信して、生徒は各教室で全校応援をするということができた。ICT環境が整ったことによって、このような思わぬ形で全校応援ができることになった。コロナに対して当然に感染対策を図ったうえで、与えられた環境の中でICTを有効活用していくことだと思う。

博物館でいえば、動画コンテンツがもう少しあってもよいと考える。例えば、企画展の見どころを短時間で紹介するとか、ミュージアムトークなどをコンテンツとして上げるなど。また、SS利用では、博物館の利用の仕方や学習する内容をまとめた動画をあらかじめ学校で見て確認し、博物館を訪れた際にはすぐに学習を始められることで時間短縮になり、博物館職員の負担軽減にもなると考える。他には、北海道北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産登録されたことから、博物館で持っている縄文に関する情報を他の機関と連携しながら発信できたらよいと考える。

(委員) 新聞の取材で、オンラインでやり取りすることが増え、便利になった反面、直接会って話を聞くことの大切さを日々感じている。

博物館においても、難しい状況の中ではあるが、直接見て、触れて、体験することの取組を探って行って欲しい。同時に、デジタル技術を使い、自宅でも知見や貴重な資料を見られる取組が必要と感じる。

(委員) コロナ禍で感じたのは、東日本大震災後の時も今回も災いが起きた時に博物館の弱いところが明るみに出るということである。例えば、デジタル化への対応の遅れや情報発信するためにベースとなる資料情報の整理の遅れ、職員の専門性の不足などであり、入館者数が減っても、展示や普及事業は減っていないため、職員の負担は変わらないということがある。その中で新しいことを始めるのは難しいが、できるところからやっていくしかないと考える。最も重要なのはデジタル情報発信のための基盤を用意し、次に様々な資料情報を検索できるプラットフォームを整備して、それを簡単に職員が使用できるようにすることである。また、YouTube やインスタグラムを利用した情報発信ができる基盤を用意することにより、普及事業だけでなく展示解説などに活用すべきと考える。

(委員) 県外への修学旅行が当たり前であったものが、このコロナにより博物館など県内の良い所を訪れるという良い機会になったと思う。この機会を捉えて、博物館でももっとPRして行って欲しい。

また、学校でのタブレット端末利用の話が出たが、博物館においても、子どもたちが事前に博物館について調べてから校外学習に訪れることで、より興味を持って取り組めると思う。

- (委員) YouTube などインターネットを介し、簡単に知識が得られるが、実体験というものが子どもの記憶と成長に欠かせないということは、博物館でも児童会館でも同じ課題としてあると思う。博物館は自然豊かな環境の中にあるので、外での体験も含めてメニューを提供できるのではないかと思う。
- (委員) 博物館の取組の中の一つで、実際に本物を見る・体験して得られる感動を非常に大切にしていることを理解した。小学校でも、児童に一人1台のタブレット端末が配布されたことから、今後、タブレットを持って博物館の展示や体験の様子を撮影するなど広がりのある豊かな学習が予想される。
- 次に、オンライン等で来館できない人への情報提供をもう一つの柱に見据えていると理解した。小学校における今回のタブレット端末に係る動作環境の整備については、メンテナンスやソフトのアップデート、さらには故障の対応など、専門機関の協力がなければなかなかできるものではないと感じた。博物館で今後デジタル環境を整備するにあたっては、新たに専門の班を設けて取り組むのがよいのではないか。
- 最後に、コロナ感染症防止対策を徹底されていると感じた。
- (委員) 入館者数がなかなか増えない中、学校団体の利用は増えているという報告があったので、ぜひそこを伸ばして欲しいと感じた。大規模校の受入れに苦慮しているということであれば、館内の講堂や学習室を使い、学年にあった講義をしたり、プロジェクターを使って映像資料を見せたり、そういったことで人数を分散させる利用方法もあるのではないかと思う。学校団体の利用実績を増やしていくことが、これからの博物館にとって意味があると思う。
- (委員) コロナ禍でオンラインなどのICT技術がますます発展し、そういった技術を駆使した展示会も増えていくと思うが、博物館を訪れ、実際に見ることによって心に響くことや心が動かされるものがあるので、リアルとオンラインの二つをうまく取り込んだ形で今後の企画を検討して欲しい。
- (委員) 小学校のPTA役員をしており、定期的に行われる学校医とPTAの保健会に参加しているが、その中でもコロナ感染防止のために特に注意すべき点などが話題となっている。
- (委員) 博物館の事業報告等を受け、コロナ禍で県外からの資料借用は大変であると感じた。一方、秋田県の魅力を再発見する機会と思うので、館蔵資料や県内の資料などを色々工夫して、魅力ある展示を継続して欲しい。

(委員) 委員のみなさんのご意見からもICT活用が一つのキーになっていると思う。私の勤める大学でも昨年はzoomを利用して遠隔講義を行ったが、実施後のアンケートで遠隔講義の方が分かりやすかったという意見もあった。一方、実験や実習も同様にzoomを利用して行ったが、こちらの理解度は乏しかったという印象を受けた。今年度はコロナ対策をしながら学校で実験を行ったが、講師の説明はICTを活用してプロジェクターに投影して遠隔から行うという形にした。やはり、このようなことを実施するには予算が必要であり、博物館のデジタル化の遅れも予算の問題もあると思う。ただ、ICTをうまく活用することで、見て触れて体験するというところは維持できるということもあるので、今後も検討を重ねて行って欲しい。

ウ その他「令和3年度ミュージアム活性化事業「特別展」の評価依頼について」  
今年度から始まった、ミュージアム活性化事業に係る外部委員評価制度について説明し、令和3年度特別展「佐竹氏遺宝展」の評価を依頼した。

(5) 閉会